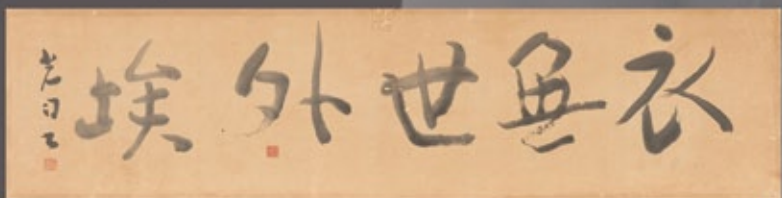




吉祥 1987年 第35回独立書展



安心 1969年 改組第1回日展



衣無世外埃 1953年 第1回独立書展

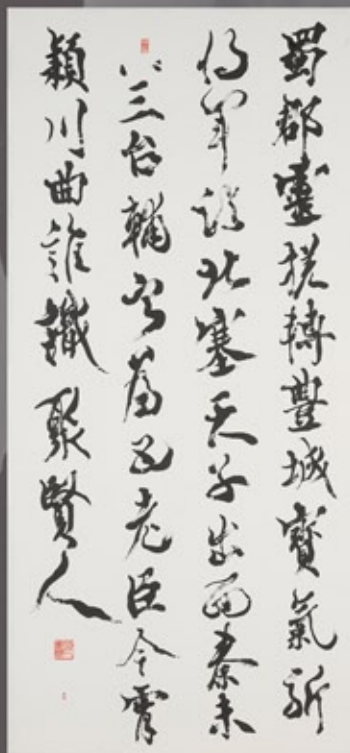
立石光司 (たていし みつじ)

1927年、古河生まれ。大久保翠洞に師事し、16歳のときに興亜書道連盟展において青少年の部・内閣総理大臣賞を受賞する。これが手島右衛門の眼にとまり、右衛門のもとに師事することとなる。25歳のときに独立書道会の創立に参加し、のちに独立書人団の事務局長・副理事長をつとめる。また、映像に強い関心をいだき、45歳のときに東洋文化映画研究会を設立し、書道文化を中心とした映画制作に携わった。指導者としては、日本書道専門学校教授、東京芸術大学美術学部講師をつとめ、毎日書道会審査員もつとめた。海外交流においては、国際書道連盟顧問となって、欧米・中国を歴遊した。地元古河市においては、生井子華に篆刻を学び、篆刻美術館の提言・設立に携わった。2002年歿。

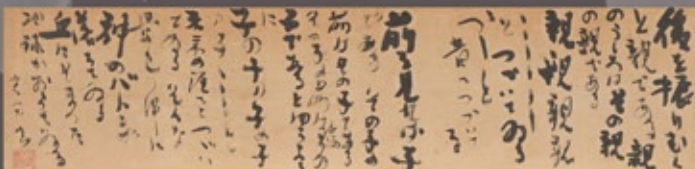


臨・伊都内親王願文 1993年 第45回毎日書道展

「私は臨書を“行”として手習いをしていくことが書の道であると思っている。世にいう作品づくりについては甚だ懶惰な私だが、それでも何とか人並みにお付き合いしてこられたのは、臨書のおかげだと思っている。私は作品は作るものと思っていない。従ってあらかじめ形式とか構成など考えることはしない。個性を出そうとすれば個性を出そうとする意志があらわになって、その人らしさが影をひそめてしまうと考えている。無心で書くことによって自分らしさが出るものである。奥行きのある深い伝統をもった書の世界では、新しいものなどと力んでみればみるほど格調が下がる。大きな大四次元の世界から見れば、個人の性など大天才であろうと、たかが知れたものである。むしろ宇宙にとけこみ個をむなしくした人が天才であろうと思う。私にとっては、歴史に残された偉大な天才たちの書いてきた道を、ひたすらコツコツと歩む臨書の道しかたどる道はないと思っている。」(『毎日書道講座2 行書 草書』/毎日新聞社/1988年発行)



臨・李嶠詩 1994年 第42回独立書展



山之口瓊の詩「春のある景色」 1955年 第1回古河市民文化祭

記念講演会「立石光司の仕事と書」
講師 山中翠谷【(公財)独立書人団
常務理事・事務局長、
(一財)毎日書道会
総務】

日時 令和2年4月19日(日)
14:00~15:30(開場13:30)
会場 古河歴史博物館研修室
定員80名
申込 4月1日(水)より電話にて予約受付
0280-55-5211
主催 茨城県独立書人団

墨魂 一立石光司の仕事一 創作から臨書

令和2年3月14日(土)~5月6日(水)

開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで) / 休館日 4月23日(木)・24日(金)・30日(木)

入館料 一般 400円(団体20名以上300円) 小中高生 100円

主催 古河歴史博物館 / 協力 茨城県独立書人団

後援 (公財)独立書人団、(一財)毎日書道会、日本書道専門学校 毎日新聞水戸支局、茨城新聞社、下野新聞

古河歴史博物館

交通案内 JR宇都宮線 古河駅より徒歩15分

東武日光線 新古河駅より徒歩20分

〒306-0033 茨城県古河市中央町3-10-56 TEL 0280-22-5211 FAX 0280-22-5215

